

墨田・板橋清掃工場視察 (東京二十三区清掃一部事務組合)

日 時 : 平成21年2月19日(木) 午前8時45分～午後4時40分

参加者 : 田村副委員長、橘委員、広江委員、早川委員、越智委員、石黒委員、前川委員、
村井委員、クリーンセンター3名(木村・鈴木・宮本)

墨田清掃工場と板橋清掃工場の視察を行いました。

墨田清掃工場

墨田清掃工場は、平成10年に新設となった施設であり、600t一炉のストーク方式の工場です。23区一組の工場では二番目に大きい規模の工場で、中核的存在の工場の一つです。誰でも入って見られる「開かれた工場」として、朝から夕方までの間、場内の遊歩道はもとより、施設内の見学者コースに自由に入ることができます。地域景観に配慮したデザインとして、建物は下町の連子格子の建具をイメージし、屋根は川の流れとメロディを表しています。煙突は縦笛をイメージしていて、遊歩道の各所に楽器をモチーフにしたオブジェが配置されています。

自由に入
りできる
見学者
コース



縦笛をイメ
ージした煙
突

楽器をモチ
ーフにした
オブジェ



武蔵野クリーンセンターの3倍以上の処理規模の工場ですが、敷地面積はほとんど同じで、敷地面積に対する建築面積の割合は、武蔵野クリーンセンターが約30%であるのに対して、墨田清掃工場は約45%となっています。武蔵野市以上に近接する戸建てやマンションがあるのですが、地元の運営協議会との関係は良好で、「工場のことは安心している」という言葉を運営協議会委員からいただいているとのこと。現工場長の飯盛さんが就任してから3年の間には、夜中に臭いについてのクレームが一回だけあったようですが、すぐに調べてみたところ墨田清掃工場のものでは無かったとの話でした。

板橋清掃工場

板橋清掃工場は平成 14 年にプラント更新を行い、プラントのみでなく緑を積極的に設置し、平成 16 年には「屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール」で環境大臣賞を受賞しています。方角ごとにツタの種類を変え、季節で水をやる量を変えるなどの工夫を行っています。工場紹介ビデオは手話がついており、聴覚に障害がある方にも分かりやすいものになっていました。



壁面緑化の様子。夏は鮮やかなグリーンに。



太陽光パネル。6年間の稼働で補修は一度も必要になっていない



桜の木があるオープンスペース。春には開放し、大賑わいに

板橋区では、「エコポリスセンター」でごみの分別なども含めた環境教育・環境情報の発信を行っています。また、区をあげての緑化への取り組みも盛んです。板橋清掃工場職員の半分以上が区の職員であり、区との連携を密接に図っています。